2015 SUPER GT
LMcorsa・Ｒａｃｅ　Ｒｅｐｏｒｔ
第３戦　タイ・チャーン・サーキット

◆ **6 月 20 日（土）　＜ 予　　選 ＞** 天候：晴れ　｜　コース状況：ドライ

＃60　SYNTIUM LMcorsa RC F GT300／飯田章・吉本大樹　出走できず

ゴールデンウィークに富士スピードウェイで開催されたシリーズ第 2 戦から 1 ヶ月半のインターバルを経た 6 月 20 日、タイはブリーラム県にあるチャーン・サーキットでシリーズ第 3 戦の BURIRAM SUPER GT RACE が開幕した。今シーズンから LEXUS RC F GT3 にマシンを一新、引き続き飯田章／吉本大樹のドライバーコンビで参戦する LM-corsa も梅雨入りした日本を離れ、チーム全員がチャーン・サーキットに勢ぞろいしている。＃60　SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 として、世界に先駆けて実戦デビューを果たした LEXUS RC F GT3 だが、ここまで苦戦を強いられてきている。これは LEXUS として初の GT3 マシンであり、まさに“生みの苦しみ”。それでも一歩ずつ着実にポテンシャルが引き上げられてきており、去年 10 月のこけら落としイベント以来、これが 2 レース目となる今回のように、各チームが揃ってデータ不足で臨む際にはある意味チャンスとなる。昨年は 4 位入賞を果たしているだけに、チームスタッフ全員が、一層モチベーションを引き上げてレースウィークを迎えることになった。

土曜日は、いつものように午前の公式練習で始まった。今回は、朝一番でサポートレースが行われ、SUPER GT の走行は午前 10 時から 11 時 45 分まで。セッション終盤に、それぞれ 10 分ずつ、GT500 と GT300 の専有走行時間が設けられているから、実質的には 95 分間の走行セッションとなる。さらにピットウォークやオープニング・セレモニーを挟んで午後 3 時からは公式予選が行われる。ノックアウト方式で行われ、GT500 と GT300 が、それぞれ 15 分の Q1 を走り、GT300 では上位 13 台だけが 7 分間の Q2 に進むことができ、その Q2 で上位 13 位までのグリッドが決定する、というスタイルもいつも通りだ。

朝 10 時から始まった公式練習では飯田と吉本が交替でドライブしたが、なかなかペースを上げることができないでいた。そしてセッション終盤を迎えたところでピットに戻り走行を終了した。実は駆動系にトラブルが発生してしまい、その後は走行を続けることができなかったのだ。ピットガレージの中でチームスタッフは手際よくマシンを“高馬”に乗せ、点検チェックとトラブル改修を急ぐことになった。だが簡単には対策を終えることができず、結局、午後の公式予選には出走できないまま、レース初日を終えることになる。

チームは、この後、明日に向けてマシンのトラブルを改修すべく一丸となって作業を進めることになった。まだまだトンネルの出口は見えてこないが、チームの熱意がある限り、必ず光明が見いだせるはず。一層の応援をよろしくお願いします。

ドライバー／飯田　章

「やはりクルマをいちから創り上げるのは簡単じゃないですね。こんなに苦戦が続くと、チームの雰囲気も荒んでくることが少なくありませんが、ウチはそんなことなくて良い雰囲気でやっています。オーナーも一生懸命に応援してくれるからチームも、皆が一丸となって頑張れる。本当にチームの雰囲気は良いですね。だからドライバーもモチベーションを保って頑張っていきます」

監督／小林敬一

「今回は駆動系のトラブルで公式予選を走ることができませんでした。トラブルが続くとメカニックは大変ですが、うちでは皆が頑張ってくれているので、その点では頼もしいチームだと、安心しています。ただ、クルマを開発するのは大変です。現時点では速くする以前に、トラブルなく走らせるように頑張っているところです。今晩、皆で何とか頑張ってクルマを走らせるようにして、明日の決勝でレースディスタンスを走る。それができれば大きな一歩になると思います。何とか頑張って、明日のレースではしっかり走りきりたいですね」